

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-88410

(43)公開日 平成5年(1993)12月3日

(51)Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 D 34/04	A			
A 4 6 B 3/18		2119-3B		

審査請求 未請求 請求項の数2(全2頁)

(21)出願番号 実開平3-110751

(22)出願日 平成3年(1991)12月18日

(71)出願人 592014333

有限会社藤村製作所

東京都練馬区早宮1丁目44番地

(72)考案者 山本 光男

東京都練馬区早宮1丁目44番地 有限会社
藤村製作所内

(72)考案者 和田 勉

東京都練馬区早宮1丁目44番地 有限会社
藤村製作所内

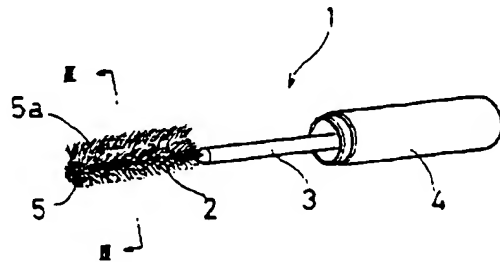
(74)代理人 弁理士 小山 輝晃

(54)【考案の名称】 マスカラ

(57)【要約】

【目的】 マツ毛の染色を簡単に綺麗に仕上げる。

【構成】 放射状に植設した円形ブラシ5の一部を延長して横断面が扇形状の長尺ブラシ5aに形成する。



BEST AVAILABLE COPY

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 支持棒の周面に放射状に植設した円形ブラシの一部を横断面が扇形状の長尺ブラシに延長形成したことを特徴とするマスカラ。

【請求項2】 前記長尺ブラシは前記支持棒方向において櫛歯状に所定の間隔を存して配設していることを特徴とする請求項1に記載のマスカラ。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の1実施例の斜視図である。

【図2】 図1のII-II載断面図である。

*10

2

*【図3】 要部の拡大正面図である。

【図4】 本考案の1実施例の使用状態を示す説明図である。

【図5】 本考案の1実施例の使用状態を示す説明図である。

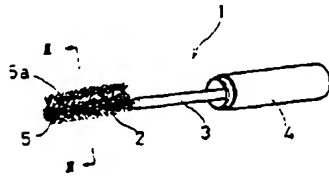
【符号の説明】

2 支持棒

5 円形ブラシ

5a 長尺ブラシ

【図1】



【図2】



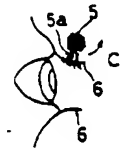
【図3】



【図4】



【図5】



からなる支持棒2と、該支持棒2を保持する保持棒3と、該保持棒3を固定する把持部4とからなり、前記支持棒2にはブラシ5が挟み込まれて円形状に植毛されると共に該ブラシ5の一部は延長されて図2に示す如く、扇形の長尺ブラシ5aに形成され、更に該長尺ブラシ5aは図4の如く支持棒2方向において櫛歯状に所定の間隔を存して配設されている。尚6はマツ毛を示す。

【0009】

次に上記実施例の作動を説明する。

【0010】

先づ把持部4を保持して図示していないマツ毛用液の容器に挿入し、該容器内の液をブラシ5に付着させた後、該容器の口部に長尺ブラシ5aを当てて引き上げると、前記ブラシ5に付着した液が搾られて該ブラシ5には適量の液が付着するが、長尺ブラシ5aにおいては、液が前記容器の口部で搾られて少量しか付着しない。

【0011】

次に図4の如く、例えば上マツ毛6にブラシ5を当てて矢印A方向及びB方向に回転すると、該ブラシ5に付着した液が前記上マツ毛6に付着し、その後図5の如く長尺ブラシ5aを上マツ毛6に当てて矢印C方向に回転すると、該長尺ブラシ5aが櫛歯状に形成されているので、マツ毛に付着した余分な液を除去すると共にマツ毛6が1本1本独立した形に梳かれて綺麗に仕上げられる。

【0012】

又、下マツ毛6の場合には上述と同様に行えばよい。

【0013】

尚、液との関係でブラシ形状を本考案の趣旨を逸脱しない範囲で変更することができる。

【0014】

【考案の効果】

上記のように本考案は、支持棒の周面に放射状に植設した円形ブラシの一部を延長して横断面が扇形状の長尺ブラシに形成したので、該長尺ブラシによりマツ毛に付着した余分な液を除去することが可能となると共に、マツ毛が1本1本独

立した形に梳かれてマツ毛を簡単に綺麗に仕上げることができる効果を有する。